

山本大臣閣議後会見

平成25年12月10日

我が国のロケットについて



イプシロンロケット

- ✓ 平成25年9月14日打ち上げ成功。
- ✓ 我が国がこれまで培ってきた固体燃料ロケット技術を継承。
- ✓ 低コスト化、モバイル化、作業時間の短縮化などの優れた能力を実現。

低コスト化: 打ち上げ費用はM-Vの約半分。30億円以下を目標。

モバイル化: パソコンによる管制。

作業時間の短縮化: 射場作業時間を42日(M-Vロケット)から7日に短縮可能。

- ✓ 2号機の打ち上げは平成27年度を予定。



H- A/Bロケット



<H - Aロケット>



<H - Bロケット>

- ✓ H- Aロケットは、これまでに22機を打ち上げ。H- Bロケットはこれまでに4機を打ち上げ。打ち上げ成功率は96%と、世界最高水準の信頼性。
- ✓ 年明けの平成26年は、全球降水観測衛星 (GPM/DPR)、だいち2号 (ALOS-2)などをH- Aロケットで、このとり5号機をH- Bロケットで、それぞれ打ち上げ予定。

JAXA提供



新型基幹ロケット

- ✓ 平成25年5月、第15回宇宙政策委員会において、平成26年度からの開発着手を決定。
- ✓ 同年10月、宇宙輸送システム部会において、開発着手にあたり、整理すべき事項をとりまとめ。

ロケットと射場の一体的・効率的な開発により、運用コストを現状から半減
多様な機体ラインナップにより、様々な衛星打ち上げニーズへの柔軟な対応
高信頼性・低コストの新規エンジンの開発、シミュレーション技術等による開発プロセスの高信頼化による、信頼性の向上



機体ラインナップ
<イメージ>



<イメージ>

- ✓ 平成32(2020)年の初号機打ち上げを目指す。
東京オリンピック開催年

まとめ

現在、我が国では、H-Aロケット、H-Bロケット、イプシロンロケット等を運用中。

我が国宇宙活動の自律性の確保の観点から、宇宙輸送システムの保持は必須。

宇宙政策委員会の決定を踏まえ、平成26年度概算要求にて、文部科学省より、新型基幹ロケット関係予算を要求中。